

校内事例研究会

《目的》

対象生徒への意識を高め、積極的な働きかけを援助する。

《意義》

- 対象生徒の実態把握と理解を深めることができる。
- 生徒理解の内容・方法を他の生徒の指導や援助に生かすことができる。

《進め方》

- 中略 -

《留意点》

- 担任（発表者）の立場で考える。
- 原因探しより、具体的に、今できることを考える。

- 中略 -

〔具体的にどのようなことができるか〕

☆ 本人の登校意欲を高めるために

対 象	具体的な対応策	
	誰 が	どのようなことができるか
本人に 対して	()	○ ○

- 以下略 -

せた人数は、各回とも7人以上となっている。

② 他の生徒の指導援助の参考になったか。

各回とも、「たいへん参考になった」は、1人である。しかし、「たいへん」と「まあまあ」を合わせた人数は、6人以上となっている。

【図12】 事例研究会資料

② 対象事例 ハンディキャップからの葛藤で欠席の多いC子の事例

③ 反省

ア 担任と関係教師の具体的な指導分担と内容について、共通理解が図られた。

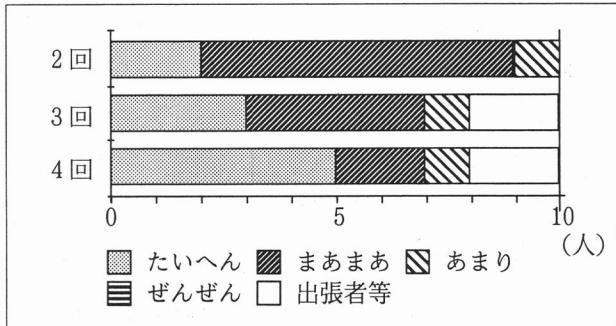
イ 本人の卒業までの指導目標についても、話し合うことが出来た。

《第2回～第4回研修会評価と考察》

(1) 評価の結果

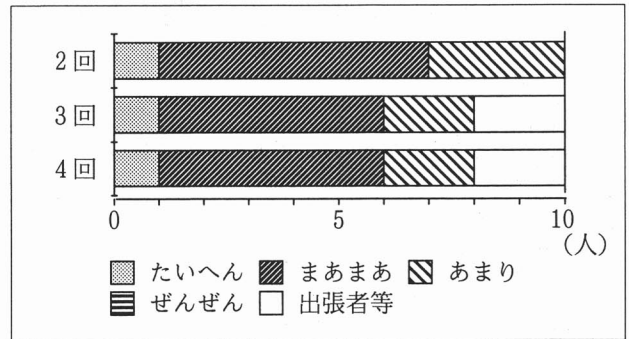
評価は、受講者10人全員を対象にして、各回終了時に次の項目について、「たいへん」、「まあまあ」、「あまり」、「ぜんぜん」の4段階で質問した。

① 対象生徒の実態把握と理解が深まったか。



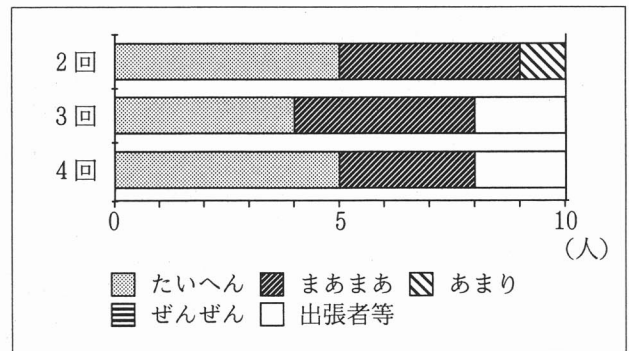
【図13】 対象生徒の実態把握と理解が深まったか

回を重ねるごとに「たいへん深まった」の人数が増加している。「たいへん」と「まあまあ」を合



【図14】 他の生徒の指導援助の参考になったか

③ 共通理解を深め、連携を図る機会となったか。



【図15】 共通理解を深め、連携を図る機会となったか

各回の「たいへん」と「まあまあ」を合わせた人数は、8人以上となっている。そのおおよそ半数は、「たいへん連携を図る機会となった」である。

(2) 考察

評価の結果から、各回の事例研究会形式の研修会